

かわらばん

第14号 2017年4月23日



国会審議始まる……“共謀罪”とレーン・宮沢事件
基地はアメリカの防波堤……三上智恵監督『標的の島ー風かたか』
ウィメンズマーチ3・8に参加して
市民と野党をつなぐ会@東京（つなぐ会）第3信
笠間市にて「東海第二原発再稼働を考える会」発足

国会審議始まる……

“共謀罪”と

レーン・宮沢事件

二〇一七年三月

二〇一七年三月九日朝日新聞の
ザ・コラム「自由・人権と国家 不
都合な真実に牙むく権力」（駒野剛）
に目がとまり、切り抜いた。（敬称略
以下同）

ここでは、一九四一年のレーン・
宮沢事件と、一九七二年沖縄返還時
日米協定の密約の存在を取材した西
山太吉が国家公務員法違反で起訴さ
れた件（二〇〇〇年に米国立公文書
館の情報公開で密約の存在は明らか
になった）での新聞人の対応をふり
返り、現在共謀罪の趣旨を盛った法



律が導入されようとしている状況で
新聞人の責任を自戒していた。

密約の件は、山崎豊子原作の『運
命の人』がドラマ化されたこともあ
り記憶する人は多い。しかしレー
ン・宮沢事件についてはあまり知ら
れず、私も内容は知らず、調べよう
と思った。そこに全く思いがけず友
人が「レーン・宮沢事件」もうひと
つの「二月八日」のDVD（秋元
健一監督 一九九三年ビデオプレス
制作 五〇分、左上写真）を送って
下さった。これから見る人のために
内容の詳細は省くが、「共謀罪」の
趣旨を盛る組織的犯罪処罰法改正案
が審議される現在の私たちに多くの
ことを教えてくれる。

一九四一年二月八日 真珠湾攻撃
と同じ日に……

一九三〇年代から北海道大学には
アメリカ、ドイツ、イタリアなどか
ら招かれていた教師がいた。その教
師と学生が授業以外でも交流する場
があり（一九三九年発会の「心の
会」）、ともに旅行等もしていた。そ
れが突然一九四一年二月八日アメ
リカ教師レーン夫妻と学生の宮沢

弘幸ほか四人計七人が「軍機保護法違反」として逮捕された。その後に検挙された三人を含む一〇人のうち六人が有罪となった。宮沢弘幸は、

「旅行などで見聞したことをレーン夫妻に漏洩した」などが理由とされたが、それらはすでに外国にも知られていたようなことばかりだった。たとえば、その一つである根室の海軍飛行場の存在は有名なリンドバークが着陸したとき新聞に大きく報じられ、公知のことであった。しかしそれらの主張は受け入れられず、ハロルド・レーンと宮沢弘幸には懲役一五年、ポーリン・レーンには懲役一二年の判決が下った。冤罪にもかかわらずゾルゲ事件に次ぐ重い刑であった。宮沢弘幸は広い視野に立ち国家の方向を考える、むしろ愛国青年とも言うべき人物であったのだが……。

その後一九四三年レーン夫妻はアメリカに送還された（その事情については刑務所の記録は廃棄され不明だが、アメリカで拘束された日本人スパイと交換の可能性がある）。宮沢弘幸は網走刑務所で服役、一九四五年一〇月に釈放されたが、

獄中でかかった肺結核が癒えることなく一九四七年二月亡くなった。二七歳の若さであった。

一九五一年レーン夫妻は再び北大に招かれた。来日したレーン夫妻は真っ先に宮沢弘幸を弔うため花束を持って宮沢家を訪れたが、息子の死は夫妻に責任があると思ひ込んでいた弘幸の母は受け入れなかった。その後北大でレーン夫妻は教鞭を執ったが事件については語ることもなく、一九六三年にハロルド・レーン、一九六六年にポーリン・レーンが死亡。札幌の墓に眠る。

一九八六年頃～一九九三年

以上の事実は長らく知られることはなかった。取材した朝日新聞の敷下編集委員の語る「治安維持法の被害者は戦後、ある意味で愛国者として胸を張って証言したが、国家秘密法の被害者は売国奴というレッテルを貼られて当事者も家族も口をつぐみ、所在すらわからず、証言者を探すのは極めて困難であった」（筆者要約）という事情があったと思われる。そんな中、漸く宮沢弘幸の唯一人の遺族である妹の秋間美江子が証言

を決意するに至り、少しずつ真相が明らかにになり、一九八七年に上田誠吉弁護士のある北大生の受難と国家秘密法の爪痕（朝日新聞社）が出版された。

一九八五年から自民党が立法しようとしていた国家秘密法案、スパイ防止法案に対して札幌弁護士会が中心になって何回か集会を開いた。そこには秋間美江子夫妻もアメリカから来て「私たちのような家族を作らないで。これからの人は頑張つて」と訴えた。一九八七年国家秘密法案は提出されずに終わった。

一九九三年ドキュメンタリー映画「レーン・宮沢事件」もうひとつの「二月八日」が制作された。

再び二〇一七年

二〇一三年一二月には特定秘密保護法が制定され（その兆候への危機感から同年四月に『ある北大生の受難と国家秘密法の爪痕』が花伝社から復刊されている）、二〇一五年には憲法違反が指摘される中での安保法制強行制定、そして今、テロに対応するためとして（テロに不安を感じる市民に煙幕を張るようにしながら）

ら）これまで三回廃案になった共謀罪が審議入りしている。

伝統的に犯罪は実行された「行為」が処罰されるが、この法律では共謀や準備が取り締まられる。また、捜査機関の恣意的な判断が入る余地があり、一般市民も監視される可能性は否定できない。

このような状況に危機感を抱く人たちは少なくない。上記のDVDを送ってくれた音楽仲間の友人も、キリスト教会で知り合った人からこのDVDを受け取り視聴して感動し、「共有したい」と私にも送って下さったのだった。私も「共有したい」と友人知人に次々と手紙を書きDVDや本を送っている。人とのつながりを大切にしながら、共謀罪の成立阻止につなげたい。

（伊東 輝）



基地はアメリカの防波堤

三上智恵監督作品

「標的の島 風かたか」

『標的の島』とは、沖縄のことではないんです。日本という島。今や日本全体がアメリカの「防波堤」(風かたか)にされようとしている。沖縄にいるからこそわかる危機を伝えたい。一方で日本は、七二年前の沖縄戦同様沖縄を防波堤にして安心を得ようとしている」

三上監督が語る言葉は物凄いスピードで現実味をおびてきている。四月六日アメリカはシリアに五九発のミサイルを発射し、一三日アフガニスタンに、最大級の破壊力を持つ大規模爆風爆弾を投下した。

朝鮮半島近海に原子力空母を移動させた。北朝鮮に対して軍事行動に出るのではないかと懸念が現実的になっている。北朝鮮はアメリカの軍事施設を攻撃すると言う。アメリカの軍事施設とは日本列島、とりわけ沖縄にある米軍基地だ。

沖縄の人々が再び自分たちが標的になることを拒否し、厳しい抵抗

が続く様子を映画「標的の島、風かたか」は伝える。辺野古、高江、さらに宮古島、石垣島でのミサイル基地建設と自衛隊配備が日本列島を防波堤とするアメリカの新戦略のためであり、日本を守るためではないことを伝える。基地があれば標的になることを誰よりもよく知っている沖縄の人々の闘う姿はすさまじい。

五ヵ月拘束されて先日釈放された山城博治さんが身を挺して闘いをリードしている姿がある。山城さんは映画の公開数日前に保釈されたが、映画上映後のトークで三上さんが直接山城さんと話したこととして伝えた言葉に愕然とした。保釈には条件がつき、決められた一〇人の人と会ってはいけないことになっているというのだ。共謀罪を想起して恐ろしくなった。

映画の中で二つの小さな場面が印象に残った。オスプレイが飛ぶ高江の森の木の上から心配そうに見下ろす小さな鳥、ノグチゲラ。ヤンバルクイナと並んで絶滅危惧種の野鳥、めつたに見ることのできない鳥だ。もともとやんばるの森は彼らのものだった。

もう一つは雨の中で男女二人の



若者がじつと見つめ合う場面、女性の目は訴えている。目をそらすことなくじつと見つめ返している機動隊の若者は何を思っているのか。まるで劇映画の一場面のようなだった。

「風かたか」は防波堤のこと。「沖縄の人々は自分たちが『風かたか』になり大切な自然、文化、土地を子孫へと受け継がなければならないという強い思いで闘っている」という三上監督の言葉を、怒り、悲しみながらも三線の音色とともに、笑顔でエイサー、バーントウ、アンガマを歌い、踊る人々の力強い姿からしっかりと感じ取ることができた。

(坂元良江)



全国で順次公開中。

公式サイト <http://hyotekinoshima.com/> の劇場情報をご覧ください。

ウィメンズマーチ3・8に参加して

今年の一月二日、トランプ新大統領に抗議する女性たちの大規模な行動 women's march が米国ワシントンで五〇万人にも上る参加者が結集して行われた。全米では百万人規模、またそれは全世界に波及してアジア、北米、ヨーロッパなどでも多くの女性たちが性差別への怒り、移民への差別と偏見への抵抗、あるいは Our Bodies Ourselves (私の



体は私のもの) というリプロダクティブ・フリーダムを掲げて行進した。グロリア・スタイネム、アンジェラ・デービス、マドンナ、アリシア・キーズ、オノ・ヨーコ、ウーピー・ゴールドバーグなど、多数のフェミニスト、歌手、女優が力強いアピールを発信し、行進を牽引し盛り上げた。その規模とともに、多彩なプラカードからはアメリカにおける五〇年以上にわたるフェミニズムの歴史、公民権運動の歴史が垣間見えて、女性初の大統領誕生は実現しなかったものの、アメリカの女性たちは民主主義が根づいているのだということを強く感じさせられた。その women's march の主催団体が今度は三月八日の国際女性デーに「A Day without a woman」と銘打って女性が労働を放棄する形で抗議の意思を示そうと呼びかけていた。日本でもこの機会に何かイベントが予定されていないかと探してみたところ「ウィメンズマーチ東京」が開催されるということで、参議院議員会館の院内集会和夕方からのデモに参加してみた。

院内集会は平日の昼間というこ

ともあり一〇〇名ほどの参加者で、まずは福島瑞穂議員をはじめ、共産党の斎藤和子、池内さおり議員、沖縄の風の糸数慶子議員などがこの日に寄せた力強いアピールを行った。続いて実行委のアジア女性資料センターのあいさつを皮切りに、婦人保護施設からの報告、レズビアンとしてカミングアウトしている女性の

話、女性と人権ネットワーク、ポルノ被害と性暴力を考える会や性暴力被害当事者からの発言があり、また現在問題になっている「親子断絶防止法案」の問題点について弁護士から説明があった。集会の中心テーマは性暴力被害であり、これはいうまでもなく重要な問題であってどの報告も多くの人に聞いてもらいたい話だったが、欲を言えば、国際女性デーという女性全体の闘いを包括する大きな催しなのだから、女性の貧困と労働をめぐる問題、あるいは女性たちが提起した「女たちの安保法制違憲訴訟」からの報告などもあればより広がりをもったのではないかと。

話の中で印象に残ったのは共産党の池内議員の故郷・愛媛での体験だ。彼女は三四歳という若さだが、故郷ではいまだに女はでしゃば

るな、男の三步後を歩くと強制される風土で、親族の女たちはみな隠れて泣いていた。自分も大きくなったら男の三步後を歩くような人生しかないのかとあきらめの気持ちだったが、東京へ出てみるとまったく違う生き方をしている女性たちがいる。私はジェンダーという言葉に本当に勇気づけられたと。

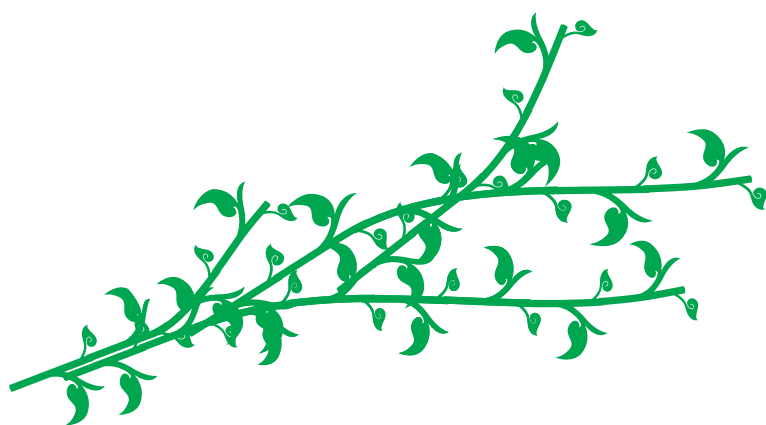
集会後は夜の青山・渋谷を思い思いのプラカードを掲げて歩いた。沿道から飛び入り参加してくれた外国人も現われ、総勢三〇〇人と人数は少なかったが、日本でもこの記念すべき日にマーチが実現できたことはよかったと思う。ただ、マーチでの「私のもやもや声に出そう」「私のしんどさ声に出そう」「女が生きるのマジでつらい」というスローガンはあまりにも内向きでおとなしいし、パワーや高揚感を感じられなかった。今の日本の女性が置かれた、「貧困の中の逼塞」という状況を表していたような気もする。

国際女性デーを祝い、大きな歴史の流れの中の女性の位置づけや世界的な女性の連帯(シスターフッド)を謳う「女の一日」の高揚感がほしかった。自戒を込めて、来年の3・

8はもつと女性のパワーがみなぎる
元氣炸裂の女の祭りにしたいと思っ
た。

なお、一月二二日のワシントン
women's march におけるグロリ
ア・スタインムのスピーチを一票の
会のメンバーである道下匡子さんが
翻訳した文を会の「かわらばん」か
ら3・8用ちらしとして抜き刷りし、
当日の院内集会和マーチ後の集会で
配布した。

(村山千津子)



市民と野党を

つなぐ会@東京 (つなぐ会)

第三信

★集会報告

第二信でお知らせしていた「市民
と野党が大集合! (東京衆議院二五
選挙区)」が三月一三日(日)に開
催されました。まずは、その報告で
す。

当日は、多忙のなか、野党各党の
代表ほか、衆議院予定候補者四二名
が出席され、参加者は四七〇名(当
初予定していた衆議院会館の第一会
場は三〇〇名で満席になり、参議院
会館に第二会場を設置)という盛況
で、東京における「市民と野党の共
闘の流れを可視化する」という、集
会の目的を達成することができまし
た!

野党候補者が選挙区ごとに並んで
勢いよく手を挙げ、その候補者達に
向かって、大勢の市民が、彼らを嵐
のような拍手で迎える光景は、胸に
グツとくるものがありました。

各党代表としてお招きした長妻昭
衆議院議員(民進党東京都連会長代行)、
小池晃参議院議員(日本共産党書記局
長をはじめ糸数慶子参議院議員(沖
縄の風)、山本太郎参議院議員(自由
党共同代表)の挨拶は、それぞれの
立場はあるものの、フランクでそし
て力の籠ったものでした。残念なが
ら福島瑞穂参議院議員(社民党副党
首)は、あいにく国会で質問中のた
め、欠席となりましたが……。生活
者ネットワークを代表して挨拶され
た山内れい子都議会議員からも目を
見張るような力強い挨拶をいただき
ました。

市民の側からの連帯の挨拶とし
て、広渡清吾東大名誉教授(市民連
合、学者の会、元日本学術会議会長)、
藤野正和(日教組都高教委長)、喜入
肇(東京自治労連書記長、武田隆雄(宗
教者平和ネット幹事、日蓮宗日本山妙法
寺僧侶)の方々、なかでも平田信吾
(創価学会、創価大学有志)の挨拶には、
ひととき大きい拍手が沸きました。

つづいて東京二五選挙区各地から
一九の地域市民組織の代表者が挨
拶。各選挙区での「野党必勝」を期
しての取組みや、政党との政策協定
の締結などの活動報告、連帯の呼び

かけや、選挙必勝の意思表示が行わ
れました。また、千葉・神奈川・埼
玉の市民団体の方々からも連帯の挨
拶がありました!



つなぐ会ホームページ <https://tunagu2.jimdo.com>

動画: https://www.youtube.com/watch?time_continue=53&v=Gd5ja1v8nmA

<https://youtu.be/zHewK1xXdlQ?> (1時間 57分)

<https://www.facebook.com/atfuchu/videos/1476588429040113/> (10分、ふちゅう市民連合 FB)

この集会が全国各地での市民による地域組織の誕生の契機となり、市民と野党との連帯が加速されることが期待されます。

集会での市民と野党との連帯の様子が一目でわかる写真や動画、会の詳細などは、「つなぐ会」のホームページ（前ページ）をご覧ください。

★各選挙区の市民活動

三月一三日の「市民と野党、大集合」の集会を経て、市民と野党の協働を進める市民組織の結成が相次ぎ、現在一八の選挙区で市民団体が積極的な活動を展開しています。また、近県千葉の活動にも目を見張るものがあります。

○三月二五日 「チェンジ国政！板橋の会」が「市民と野党の統一候補の擁立をめざして、住民の集い」開催、総勢八〇名参加

○三月二六日 千葉県知事選、「新しい知事を選ぶ会、ちば」ほか、千葉県内で四〇以上の市民による勝手連誕生

○四月一日 千葉「四区船橋市民の会」発足集会、東京五区・六区「市民連合めぐせ」一周年記念集会

○四月二日 東京九区「ねりせん」桜咲け、共同街宣

○四月三日 昭島で「市民と野党の共闘」を語る昭島市民の会呼びかけ

○四月一一日 「千葉県市民連合」県内一三の小選挙区全てで地域組織を設立させる方針。記者会見
○四月一二日 「市民連合あだち」結成総会の第四回準備会開催

○四月一五日 「千葉市民連合」柏市など四カ所で地域市民組織設立集会

○四月一六日 第六回「つなぐ会」開催（中野産業振興センター）

ご自身の選挙区での市民組織を知りたい方は「つなぐ会」のホームページ（前掲）をご覧ください。各市民組織の連絡先等が掲載されていますので、気軽にご連絡ください。

「つなぐ会」への参加や、ご自身の選挙区の市民団体への参加は、個人参加が原則です。誰でも、無条件に自由に参加できます。初めての方も遠慮なく参加してください。新しい出会いがあるかもしれません。

七月二日には、都議会選挙が行わ

れます。衆議院選挙も近いか？と言われるようになってきました。

「選挙で勝たねば、民意は政治に反映できません」

経験や教訓を共有しましょう。そして一人でも多くの仲間を増やしていきましょう。

市民連合が昨年一二月九日に提案していた「市民連合が実現を目指す政策」に関する、野党四党の考え方が発表され、その全文が市民連合の提案とともに「つなぐ会」のホームページに掲載されています。関心のある方はご覧ください。ダウンロードもできます。

今後の「つなぐ会」関係のイベントとしては、

○「市民連合あだち」結成総会
日時 四月二七日（木）
一八時三〇分～二〇時

会場 西新井ギヤラクシティ

三階、多目的室（二五〇名）
交通 東武線西新井駅 東口から徒歩三分

問合せ：市民連合あだち事務局（吉田）

（羽立 教江）

『一票で変える女たちの会』かわらばん

*ネットやメールを利用されない方には印刷版をお届けしています。ネットでご覧になる方も、ぜひ印刷してご友人・知人の方に紹介してください。

★投稿大歓迎！

本や映画の紹介、地域での活動報告、選挙や地域の政治の動き、情報、ご意見、なんでもお寄せください。（一本について二二〇字～二六〇字）

宛先：1pyodekaeru@gmail.com

郵便：〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1の1

東京ボランティア・市民活動センター

メールボックスNo. 45

FAX：03-5684-1412



笠間市にて「東海第二原発 再稼働を考える会」発足。

東海村元村長村上達也さん のお話を聴く

春うららの今朝、お隣から採れたてのわらびを両手にいっぱい、いただきます。お隣さんによると、福島原発事故らしいワラビがピタッと出なくなり、去年からやっと収穫できるようになったとのこと。

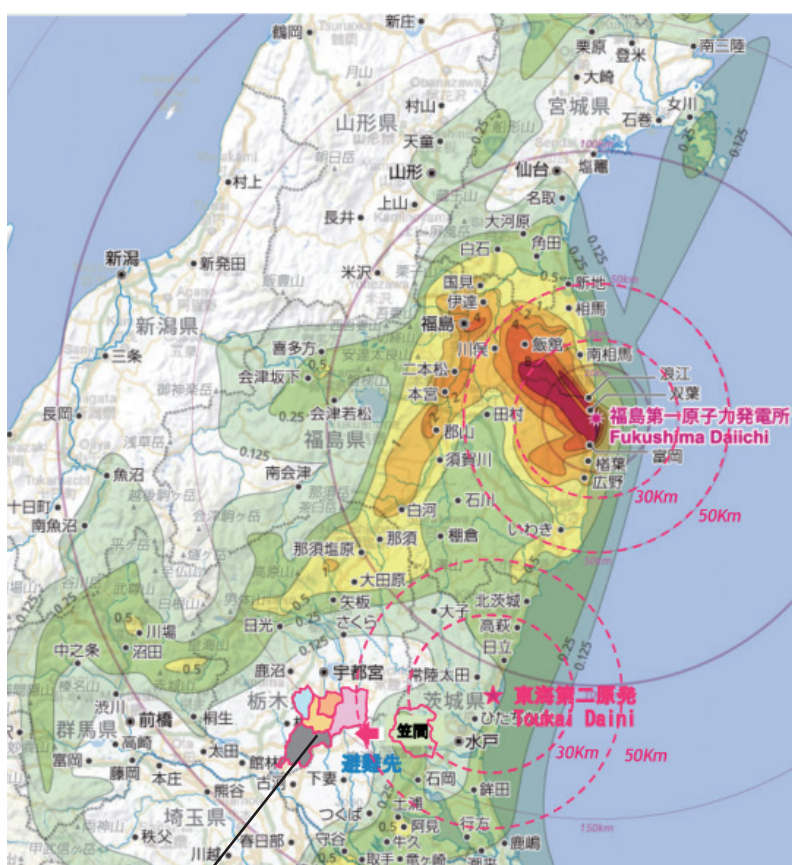
ここは東海村から三〇キロ圏内の茨城県笠間市。いま山々は杉や檜の濃い緑の合間に薄萌葱色の若葉が萌え、ところどころに桜や梅の淡いピンク色が映える頃です。そういえば、わらびやタラの芽、コゴミ、蒨やタケノコを採ってあまり汚染を心配せずに再び口にできるようになったのはこの二、三年です。

そんなところにJCO（日本原電）が大震災で停止した東海第二原発再稼働の申請を、県と東海村の合意のみで出すという話が聞こえてきました。住民にとってはまったく寝耳に水の話です。

再稼働に備えて県は、東海第二の

過酷事故を想定した広域避難計画のため隣の栃木県の小山市など五市町と避難に関する協定を結びました。三万六千人の住民がマイカーで国道や高速道路を利用して避難と想定されていますが、そのとき道路状況がどうなるのか、避難場所はどこだけ確保できるのか、まだ計画のツメはまったくされていないようです。そこで福島県からの避難住民も少なくない笠間市の、有志の人びとが

急遽動き、「東海第二原発再稼働を考える会」を発足、この四月一六日に村上達也東海村元村長の話を聞く会を開きました。多くの人に呼びかけるためチラシのポスティングや新聞折り込みなど行い、当日は二二〇人余りが公民館に集まりました。脱原発を唱える村上さんは、かつては原発推進の立場でした。しかし九九年のJCO臨界事故などで安全性への疑問を強くし、さらに3・11



笠間市が避難協定を結んだ5市町

のさい「背筋の凍る思いをして」決定的に立場を変えたそうです。この日、津波があつた四〇センチ高かつたら、東海第二原発の全電源は壊滅し、冷却水を送ることができず、福島同様の過酷事故が起きていたかもしれないとJCOも認めています。

東海第二原発は今年一・一月末で運転四〇年を迎えます。老朽化し、震災で被害を受けたというのに、さらに二〇年延長させるといふのです。その三〇キロ圏内には笠間市を含め、約九六万人の住民がいます。いったん事故が起きたら、これだけの人口とはどこに逃げたらよいのでしょうか。地図で一目瞭然のように、避難協定を結んだ地域にも放射能を運ぶ風におそわれる可能性大で、避難計画など「まったく意味がない」（村上さん）のです。

会の最後に一人の若い父親が登壇し、笠間市議会に延長の申請を原子力規制委員会に提出しないよう誓願署名を集めたいと提案、大きな拍手で賛同されました。参加者の感想に「NOを言う勇気を持ちたい」という言葉がありました。その言葉を胸に、署名集めをしていきたいと思えます。（みつゐふみよ）